

目次

はしがき ----- iii

第1部：日本音韻論学会のこれまで

日本音韻論学会の昔と今 ----- 3

第2部：現代音韻論の動向

第1章 セグメントの問題：音節内部の母音・子音の諸相 ----- 15

- 植田尚樹 モンゴル語の2種類の阻害音の弁別的特徴について
 小野浩司 ソノリティーと音韻現象
 窪菌晴夫 日本語の二重母音
 権 延姝 1911年以降の映画タイトルから見た外来語表記の変化—英語/v/, /tu/, /ti/の借用—
 清水克正 閉鎖子音のVOTをめぐる最近の研究動向
 白石英才 北東アジアにおける母音調和の歴史的発展過程
 西村康平 日本語の外来語における有声性変異
 橋本文子 東北方言の無声化が語るもの
 福島彰利 分綴と音節量について
 ポッパ, クレムス 英語における母音の音質と音量の関係について
 山本武史 英語における子音の重さについて
 渡部直也 スラヴ諸語における母音削除現象について

第2章 プロソディの問題：アクセント・リズムから音調・イントネーションまで ----- 61

- 安藤智子 東京式方言アクセントの記述—多治見方言の場合—
 伊関敏之 イントネーションの重要性と普遍性について—比較音声学の立場から—
 大塚恵子 東京方言名詞アクセントと言語接触
 桑本裕二 鳥取県倉吉方言における平板型アクセントの忌避
 佐藤久美子 長崎市方言における不定語を含む文の2種類の音調について
 柴田知薫子 英語の強勢とは何か
 田中真一 イタリア語における日本語由来の借用語と韻律構造
 田端敏幸 複合動詞のアクセント特性について
 服部範子 歌からの探る英語の好韻律性について
 黄 竹佑 漢語のメリとハリーアクセントと声調
 増田正彦 漢語北部吳方言におけるトーンサンディエー
 松浦年男 二型アクセント方言のイントネーション
 吉田優子 大阪方言らしさとは？3モーラ和語における中高型

第3章 周辺諸分野との接点：音声／音韻の形態的・心理的・認知的・生物的基盤 ----- 107

氏平 明	吃音の音韻論的分析
太田 聡	ダジャレ混成について
太田真理	脳科学実験と多変量解析による音韻理論の実証
岡崎正男	詩の韻律と統語構造のインターフェイス
川崎貴子	L2 音韻習得：注意と音韻カテゴリ形成
北原真冬	英語のストレスに立ち向かう日本語話者
竹安 大	母音長・子音長の知覚と F0 変動の影響—これまでと今後の展望—
田中伸一	言語にも化石はある：音韻論で生物・進化言語学に貢献する方法
時崎久夫	音韻論と全体的類型論
橋本大樹	短縮語形成における無標性の表出
原田龍二	複合語ができる言語とできない言語
六川雅彦	名前と性別

第4章 混沌を秩序に換える視点：音声／音韻研究の方法論・モデル・形式理論 ----- 149

石川 潔	並列処理の単位としての音素と音節
上田 功	音韻獲得と入力型
大竹孝司	音韻研究におけるモーラの定義の変遷
大沼仁美	非時系列音韻論における英語母音の音韻表示
小川晋史	研究内容の現地還元と共同研究の可能性について
小松雅彦	音源フィルタモデルと韻律
熊谷学而	外来語適応の論理的問題
佐々智将	OT 理論における母音調和の「方向性」について
佐野真一郎	コーパスを用いた音韻研究
高山知明	音韻の史的研究における二つの立場
寺尾 康	言語産出時における音節の「働き場所」について —モデル構築にみる研究方法の組み合わせ—
中村光宏	調音動作の重複と縮約：事例研究
那須川訓也	音韻的回帰併合と非時系列音韻論
西原哲雄	音律音韻論と音律範疇の枠組みと発展
ピントール, カボール	不完全指定のメリットとデメリットについて
深澤はるか	最適性理論における日本語語彙層研究
松井理直	C/D モデルの特徴と課題
山田英二	位置関数理論における計算と表示について
山根典子	ウルトラサウンドを使った L2 発音教育実験

第3部：『音韻研究』総索引